

昭和 47 年 度

地力保全基本調査成績書

〔厚岸地域・厚岸町〕

北海道立中央農業試験場

28

序

現状における土地生産力は諸種の土壌的阻害要因によつて十分にその地力を発揚できない場合が少なくないのみならず、一方では剥脱要因もあつてその地力は消耗低下しつゝある。従つてこれら阻害要因を排除して合理的かつ適切な地力保全の対策を推進し、もつて当面の農業構造改善の基盤整備に資するため、昭和34年より農林省農政局の助成を得て基本的土壌調査分類を実施している。

本調査成績書は昭和47年度に行なつた8地域1市11町をとりまとめたもので、こゝにこれを公表し営農安定の資に供する次第である。

現地調査の遂行に際して御協力を得た関係市町村、農業協同組合ならびに農業改良普及所の関係各位に対して、深く感謝の意を表する。

昭和48年3月

北海道立中央農業試験場

場長 和田 忠 雄

調査並びに取まとめ方法

本調査は、凡そ100 ha以上の集団になっている農耕地および付帯地を調査対象とし、調査および取まとめに当つては、夫々下記の資料に基づいた。

1. 土壌統および現地での営農状況は地力保全対策資料第6号(昭和36年9月、農林省振興局農産課)によつた。
2. 土壌統および区の設定並びに土壌生産力可能性等級基準は、地力保全対策資料第12号(昭和40年3月、農林省農政局農産課)及び水田土壌統設定第1次案(昭和38年12月、農技研化学部第3課)による。
3. 土壌統および土壌区の設定に当つては、北海道農業試験場農芸化学部土壌第1研究室の土性図を参照した。

化学部	部長	森哲郎
土地改良科	科長	後藤計二
	第1係長	高尾欽弥
	研究職員	水元秀彰
	"	伊東輝行
	"	木村清
	"	松原一実
	"	橋本均
	第2係長	山口正栄
	研究職員	小林茂
	"	宮脇忠
	"	山本晴雄
	"	高橋市十郎
	"	上坂晶司
	十勝農試	菊地晃二
	"	関谷長昭
	"	横井義雄
	北見農試	秋山喜三郎
	上川農試	野崎輝義
	"	土居晃郎
	天北農試	関口久雄

1. 調査地域一覧

調査地域名	該 当	農 地 面 積 (調査対象面積) (ha)		既 調 査 面 積 (h a)		本 年 度 調 査 面 積 (h a)	
	市町村名	水 田	畑	水 田	畑	水 田	畑
十 勝 東 部	豊 頃 町	351	8,290	0	0	351	8,290
	池 田 町	912	7,049	0	0	912	7,049
天 塩	遠 別 町	937	1,804	0	0	937	1,804
石狩北部沿海	石 狩 町	3,627	1,958	0	0	3,627	1,958
十 勝 中 部	芽 室 町	83	21,350	0	0	83	21,350
厚 岸	厚 岸 町	0	2,675	0	0	0	2,675
白 糠	白 糠 町	0	2,991	0	0	0	2,991
空 知 北 部	深 川 市 (多度志町)	1,686	863	0	0	1,686	163
	沼 田 町	2,742	786	0	0	2,742	786
空 知 南 部	長 沼 町	8,059	2,706	0	0	8,059	2,706
	栗 山 町	2,812	4,908	0	0	2,812	4,908
	由 仁 町	1,777	4,403	0	0	1,777	4,403

厚 岸 地 域 ・ 厚 岸 町

1. 地域の概要

(1) 位置および調査面積

(1) 位 置 北海道厚岸郡厚岸町

(2) 調査面積 (h a)

郡市町	農 地 総 面 積				調 査 対 象 面 積				過 年 度 調 査 面 積			
	水田	普通畑	樹園地	計	水田	普通畑	樹園地	計	水田	普通畑	樹園地	計
厚岸郡 厚岸町	—	3,989	—	3,989	—	3,989	—	3,989	0	0	0	0

郡市町	本 年 度 調 査 面 積				次 年 度 以 降 調 査				備 考
	水田	普通畑	樹園地	計	水田	普通畑	樹園地	計	
厚岸郡 厚岸町	—	3,989	—	3,989	—	0	—	0	完 了

2) 気 候

(太田観測所)

項 目	月 別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	全 年
	気 温 (℃)	平 均	—83	—62	—58	34	103	125	174	185	154	103	41	—45
最高平均		—31	—17	—17	8.0	15.3	17.0	21.5	22.1	20.1	15.8	9.2	0.7	10.3
最低平均		—136	—106	—106	—1.2	5.2	8.0	13.2	14.9	10.7	4.9	—1.0	—9.4	0.9
降 水 量 (mm)		101	51	47	43	120	49	161	97	103	63	40	85	960
天 気 日 数	快 晴	15	6	8	16	15	14	16	21	14	15	17	10	167
	曇	13	16	19	11	10	9	11	4	12	14	13	20	152
	雨	—	—	2	6	9	8	8	11	9	7	4	3	67
	雪	19	13	7	—	—	—	—	—	—	—	—	2	41
霧 日 数		—	—	—	3	16	15	13	14	4	4	4	1	74

太平洋に面し、農期間は短かく加えて夏期に海霧が来襲し、気温は上らず冷涼である。従つて畑作物の栽培は不利で農業は乳牛を主体とした主畜経営が行われている。初霜は9月28日、晩霜は5月21日、初雪は11月7日、晩雪は5月1日で、冬期間の積雪量少なく土壌は40～50cmの深さまで凍結する。草地はしばしば凍結害をうける。

3) 土地条件

本町の地形は低地と台地とに2大別される。低地は標高1.4～6.0mで尾幌川、別寒辺牛川等何れも太平洋に沿ぎ一般に低湿地をなしている。これら河川低地の中、下流は主として泥炭地からなり滞水状態となつていところが殆んどで未利用地となつている。上、中流域は河成堆積で一般に細粒質からなり過湿地が多い。

台地は雌阿寒岳、カムイヌプリ岳、摩周の抛出した火山灰によつて覆われている。これら火山灰は降灰年次により区分されているが、その概要を表層から示すと次の如くである。

(1) 雌阿寒岳火山灰1a層(略記号Me-1a)

4～5cmの層厚で全町に降灰堆積している。2層に分化しA層は3～4cmで、BC層は1cm内外で黄褐色を呈する砂壤土である。

(2) 雌阿寒岳火山灰2a層(略記号Ma-2a)

2cm内外の層厚で全町に堆積し、本層も2層に分化しA層は1cm内外、C層は灰白色を呈する砂壤土である。

(3) カムイヌプリ岳火山灰2a層(略記号Km-2a)

本層は本町の北部でやや厚く1cm内外、南部、西部では痕跡程度で判別しがたく、泥炭地で認められることが多い。土性はSL～Lの灰状である。

(4) カムイヌプリ岳火山灰C層、d層(略記号Km-c、Km-d)

本層はほぼ全域降灰分布するが、薄層で判別しがたいが泥炭地で認められることが多い。土性はSL～Lの灰状である。

(5) 矢白別火山灰層

北部で層厚20cm以上、片無去、上尾幌で15cm内外、門静、尾幌で10cm内外で2層に分化しA層は腐植含量10%以上、BC層は褐黄色を呈する。土性はLである。

(6) 摩周火山灰f1層(略記号Ma-f1)

本町の北部で層厚25～30cm、太田で20～25cmで、0.5cm内外の軽石を含む壤土型である。2～3層に分化し、A層は腐植含量10%以上、B1層、B2層は灰黄褐色を呈し下部程軽石の混入が多い。

(7) 摩周火山灰i層(略記号Ma-i)

本町の太田以北に降灰分布し、太田で1～3cmの痕跡で発泡の良い軽石で灰黄色を呈す。

(8) 摩周火山灰j層(略記号Ma-j)

Ma-i層と同様の分布域を示す。灰色の砂壤土である。

(9) ローム層

阿寒系のロームと考えられるものでA層をもち、土性は埴壤土型である。

4) 土地利用及び営農状況

農家数と耕地面積

総戸数	専 兼 別			農業従事者	耕地面積
	専 業	第1種兼業	第2種兼業		
421戸	173戸	126戸	122戸	1,315人	3,989.7ha

主要農作物作付面積および実収高

項目 \ 作物	馬鈴薯	エン麦	豆 類	トウモロコシ	ビート	野菜類	飼料用根菜類	牧草	合計
作付面積(ha)	43.8	34.8	4.8	9.6	30.2	50.7	175.1	3,636.2	3,989.7
実収高(大)	632.7	56.7	5.7	80.9	594.9	1,135.7	6,653.8	117,812.9	—

家畜飼養頭羽数および販売高

項目 \ 家畜	牛 乳	牛	馬	犢	鶏	鶏 卵	計
頭 羽 数	11,961 t	320	97	279	2,480	10万個	
販売額(千円)	520,548	43,200	4,074	1,395	620	1,500	571,337

農耕地面積3,989.7ha(昭和45年)のうち牧草は91%強で、酪農経営が最も安定性ある経営であり、農業の凡てが酪農に指向されている。しかし本町は経営面積がやゝ小さく、今後多頭飼育による酪農のより安定化には草地開発等による土地基盤の拡大が要請されており、また協業化による低位性の対策を進めることが必要となっている。

2. 土壤類型区分および説明

1) 土壤統一覧および土壤区一覧

(1) 土壤統一覧

土壤統名	色層序	腐植順序	礫、砂礫層礫を混在する砂層	酸化沈積物	土 性		母材堆積様式
					表 土	次 層	
トライベツ	YR/YR	表層多腐植層	なし	なし	壤 質	壤 質	風積(火山性)
太 田	"	全層多腐植層	"	あり	"	"	"
大 別	"	表層多腐植層	"	"	"	"	"
尾 幌	"	"	"	"	"	"	風積(火山性) 崩 積
上尾幌	"	表層腐植なし	"	なし	"	"	水積(河成堆積)
厚 岸	"	"	"	あり	粘 質	強粘質	"
糸 魚 沢	Y/Y	表層腐植層	あり	あり	粘 質	礫 質	"
尾幌原野	YR/YR	全層多腐植層	なし	あり	ヨ シ	ヨ シ	集積(低位泥炭)

(2) 土壤区一覧

土壤区名	簡略分級式	畑面積(ha)	備 考
トライベツ-1	III fn	620	
" -2	III n II fse	250	
" -3	III f II n	1260	
太 田	II wfn	70	
大 別	III w II tfn	2	
尾 幌	III f II twns	120	
上尾幌	II pfn	45	
厚 岸	III pw II tfn	1381	
糸 魚 沢	III di II twfn	1	
尾幌原野	III wfn II t	240	

2) 土壌統別説明

トライベツ統

(1) 土壌統の概要

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ7~14cmで腐植含量は13%内外、土性はSL~L、色は10YR~5Yで彩度1~2、明度は2~3、発達弱度の細粒状、板状構造、ち密度疎~中。PH(H₂O)5.6~6.2。下層境界明瞭。本層はMe-1a、2a層。

第2層は厚さ7~15cmで腐植含量は12~15%、土性はL、色は10YRで彩度1、明度は1~2、発達弱度の細粒状構造で孔隙に富む。ち密度疎~中。PH(H₂O)5.6~6.0。下層との境界判然。本層はKm-2a、c、dおよび矢臼別火山灰層で腐植で汚染され区分困難である。

第3層は厚さ3~6cmで腐植含量は2~5%、土性はL、色は10YRで彩度4~6、明度4~6、発達弱度の細粒状構造で孔隙に富む。ち密度中。PH(H₂O)5.8内外。下層との境界明瞭。本層は矢臼別火山灰層。

第4層は厚さ8~15cmで腐植含量は12~15%、土性はL~CL、色は10YRで彩度1~2、明度1.7~2.5、発達弱度の細粒状、粒状構造で孔隙含む。ち密度中。PH(H₂O)5.8前後。下層境界は漸変。

第5層は厚さ7~12cmで腐植含量は10~13%。土性はSL~L、色は10YRで彩度1~2、明度2~3、発達弱度の粒状構造で孔隙富む。半風化小半角礫(軽石)を含む~富む場合が多い。ち密度は疎~中。下層境界は判然~漸変。

第6層は厚さ4~10cmで腐植含量2%以下、土性はS~SL、Lの場合もある。色は10YRで彩度4~6、明度4~6、半風化小半角礫(軽石)を含む。発達弱度の細粒状構造で孔隙富む。ち密度は中。下層境界明瞭~判然。第4層~第6層はMa-f1層。

第7層は厚さ20~25cmで腐植含量は2%以下、土性はSL、色は10YRで彩度1~2、明度4~6。半風化小半角礫(軽石)を含む。均質連結状で孔隙あり。ち密度中~密。PH(H₂O)5.8~6.1。下層境界明瞭。本層はMa-f3層。

第8層は厚さ5~10cm、未風化小半角礫(軽石)層。色は10YRで彩度4~6、明度5~7。下層境界明瞭。本層はMa-i層。

第9層は厚さ1~3cm、腐植含量2%以下、土性はSL(触感)、色は10Y-5GYで彩度1、明度4~5、発達弱度~中度の板状構造、ち密度中~密。下層境界明瞭。本層はMa-j層。
第10層以下ローム層。

代表的断面形態

(所在地) 北海道厚岸郡厚岸町トライベツ 試坑468

第1層	0～13cm	腐植に頗る富む黒(5Y2/1)のL、構造は発達弱度の板状構造で孔隙含む。粘着性弱。ち密度1.8で中。調査時の湿り半乾。PH(H ₂ O) 5.9。境界明瞭。Me-1a。2aの混合層。
第2層	13～23cm	腐植に頗る富む黒(10YR1.7/1)のSiL、構造は発達弱度の細粒状構造で孔隙含む。粘着性中。ち密度1.2で中。調査時の湿り半乾。境界判然。本層はKm-2a、c、dおよび矢白別火山灰層。
第3層	23～25cm	腐植を欠く灰黄橙(10YR6/4)のSiL、発達弱度の細粒状構造で孔隙富む。粘着性中。ち密度1.4で中。第2層、第3層のPH(H ₂ O) 5.8。調査時の湿り半乾。下層境界明瞭。本層は矢白別火山灰層。
第4層	25～37cm	腐植に頗る富む黒(10YR1.7/1)のSiL、発達弱度の粒状構造で孔隙富む。粘着性中。ち密度1.3で中。PH(H ₂ O) 5.8。調査時の湿り半乾。下層境界漸変。本層はMa-f1層のA層。
第5層	37～46cm	腐植に富む暗褐(10YR3/3)のL、発達弱度の粒状構造で孔隙含む。粘着性中。ち密度1.1で疎。PH(H ₂ O) 5.8。調査時の湿り半乾。下層境界判然。半風化半小角礫(軽石)あり。本層はMa-f1層のB層。
第6層	46～50cm	腐植を欠く灰黄褐(10YR5/4)のSL、発達弱度の細塊状構造で孔隙含む。粘着性中。ち密度1.5で中。半風化小半角礫(軽石)を含む。PH(H ₂ O) 6.0。調査時の湿り半乾。下層境界判然。本層はMa-f1のC層。
第7層	50～75cm	腐植を欠く黄褐灰(10YR5/2)のSL。均一連結状で孔隙含む。半風化小半角礫(軽石)を含む。PH(H ₂ O) 5.9。調査時の湿り半乾。下層境界明瞭。本層はMa-f3層。
第8層	75～83cm	腐植を欠く黄褐(10YR5/6)の半風化小半角礫(軽石)層。下層境界明瞭。本層はMa-i層。
第9層	83～85cm	腐植を欠く黄灰(10Y5/1)のSL(触感)。均一連結状で孔隙あり。粘着性なし。ち密度1.9で密。調査時の湿り半乾。下層境界明瞭。本層はMa-j層。
第10層	85～100cm	腐植に富む黒褐(10YR3/1)のCL(触感)。発達弱度の細塊状構造で孔隙含む。粘着性中。ち密度1.8で中。調査時の湿り半乾。以下100cm以上ローム層。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土					
1	0~13	4.2	2.4	44.9	42.7	10.2	L	7.17	0.50	1.4	12.4
2	13~25	7.5	3.3	41.8	49.5	5.4	SiL	7.30	0.38	1.9	12.6
3	25~37	8.7	9.6	36.7	49.9	3.8	SiL	7.59	0.42	1.8	13.1
4	37~46	10.4	17.8	68.0	14.2	0	S	5.73	0.37	1.6	9.9
5	46~50	5.1	22.6	55.0	22.4	0	SL	1.07	0.07	1.5	1.9
6	50~75	7.6	20.5	46.2	33.3	0	SL				

層位	P H		置換酸度 Y ₁	塩基置換 容 量 me/100g	置 換 性 塩 基 me/100g			塩 基 飽和度 %	磷酸吸 収係数	有効態 磷 酸 mg/100g
	H ₂ O	Kcl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.9	4.9	1.9	21.3	7.9	1.3	0.1	37.1	1.414	2.1
2	5.8	4.9	1.9	28.5	3.6	2.5	0.1	12.6	2.106	1.8
3	5.8	5.0	1.9	31.1	4.6	2.2	0.1	14.8	2.222	2.1
4	5.8	5.2	0.6	26.1	1.5	2.2	0.1	5.7	2.302	2.2
5	6.0	5.7	0.9	8.9	1.9	0.8	0.1	21.3	1.368	0.9
6	5.9	5.6	0.6	13.8	1.4	0.8	0.2	10.1	1.946	2.1

A-2 他の土壌統との関係

本土壌に類似する統として太田統、大別統がある。堆積様式は同一であるが太田統は腐植含量多く、下層の湿りが湿~潤となり、大別統は火山灰層間に薄層の泥炭を夾在することにより区分される。

A-3 母 材 非固結火成岩

A-4 堆積様式 風積(火山性土)

B 地 形 台地上の緩波状地

C 気 候 年平均気温5.6℃、年平均雨量1036mm。春季~夏季に濃霧があり日照は少ない。秋季好天であるが初霜9月下旬で早い。冬季は積雪少なく土壌は40~60cm凍結する。

D 植生および利用状況

畑は全面牧草地、カラマツの植林地、シラカバ、ナラの山林も含まれる。

E 農業上の留意事項

薄層の火山灰が累積するところで、酸性は弱い塩基に乏しい。炭カルとして280~350kg(10a当り)、苦土、加里の施用を要する。尿撒布、有機物を

積極的に活用施用すべきである。

F 分 布 北海道厚岸町トライベツ、若松、別寒辺牛、太田、片無去

調査および記載責任者 後 藤 計 二(北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和48年3月

(2) 土壌区別説明

① 土壌区一覽

土 壤 区 名	簡略分級式
トライベツ—トライベツ1	III fn
" — " 2	III n II fse
" — " 3	III f II n

② 土壌区別説明

トライベツ — トライベツ—1

示性分級式

土 壤 生 産 力 可 能 性 等 級	土 表 有 効 土 層 厚 さ	表 土 耕 起 碎 土 含 量	耕 土 粘 着 性	表 土 風 乾 土 硬 さ	土 地 乾 湿 性	透 水 性	保 水 性	湿 潤 度	自 然 肥 沃 力	固 定 力	土 層 塩 基 状 態	分 類	置 換 性	石 灰 含 量	苦 土	加 磷 量	有 効 態 度	酸 度	障 害 性	化 学 的 障 害	物 理 的 障 害	傾 斜 方 向	自 然 傾 斜	人 為 傾 斜	侵 蝕 度	耐 蝕 性	耐 風 蝕 性			
III	t	d	g	p	w	I	I	I	I	III	1	3	3	III	1	1	3	3	2	I	1	1	I	1	—	1	I	1	1	2
簡略分級式																														

A 土壌区の特徴

この土壌区はトライベツ統に属する。全層火山灰層が堆積し、表土は35cm内外、有効土層は1m以上で厚い。耕起、碎土は容易である。透水性は大きいが保水性も大きく過干、過湿の恐れはない。固定力は大きく、土層の塩基状態は不良で自然肥沃度は低い。塩基、磷酸に乏しい。特殊の障害性はない。2~4度の緩波状性台地であるが侵蝕は認められない。

B 植生および利用状況

牧草地、放牧地に利用されている。

C 地力保全上の問題点

薄層の火山灰層が累積するところで、酸性は弱いが塩基に乏しい。炭カル、苦土、加里、燐酸の増施を要する。尚堆肥、尿撒布を積局的に利用すべきである。

D 分 布 北海道厚岸郡厚岸町トライベツ、若松、別寒辺牛。

記載責任者 後 藤 計 二 (北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和48年3月

トライベツ — トライベツ-2

示性分級式

土壌 生産 力 可能 性 等 級	表土			耕土			土			自			養			障			傾			侵										
	効 土 層 の 厚 さ	土 の 深 さ	土 の 量	表 土 の 粘 着 性	表 土 の 乾 硬 さ	表 土 の 乾 湿 性	透 水 性	保 水 性	湿 潤 度	然 沃 力	保 肥 力	固 定 力	土 層 の 塩 基 状 態	置 換 性	石 灰 含 量	苦 土	加 里	磷 酸	酸 度	化 学 的 障 害	理 的 障 害	自 然 傾 斜	傾 斜 方 向	人 為 傾 斜	侵 蝕 度	耐 風 蝕 性	耐 水 蝕 性					
Ⅲ	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	Ⅱ	1	2	2	Ⅲ	1	1	3	3	1	I	1	1	Ⅱ	2	—	1	Ⅱ	2	1	2
簡略分級式	Ⅲ ⁿ Ⅱ ^{f s e}																															

A 土壤区の特徴

この土壤区はトライベツ統に属する。トライベツ-1と堆積は類似するが傾斜地であり、腐植含量少ないことが特徴である。表土は25cm内外で厚く、有効土層は1m以上で深い。耕起、碎土は容易である。透水性大きく、保水性大きく過干、過湿の恐れはない。自然肥沃度は中庸であるが、表土の塩基は乏しく、特に牧草地であることから加里、燐酸一部苦土に乏しい。特殊な障害性はない。3~6度の傾斜地であるが透水性が大きいから侵蝕は少ない。

B 植生及び利用状況

牧草地、放牧地に利用されている。

C 地力保全上の問題点

傾斜地であることが大型農業機械の運行効率が悪い。酸性は弱いが塩基に乏しく加里、苦土、炭カルの補給に留意し、また燐酸の増施を要する。また堆肥、尿撒布も地力増施の上から活用すべきである。

D 分 布 北海道厚岸郡厚岸町別寒辺牛

記載責任者 後 藤 計 二 (北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和48年3月

トライベツ — トライベツ 3

示性分級式

土壌生産力可能性等級	表土の層の厚さ	有効土層の深さ	表土の耕起の難易	耕起の土の粘性	表土の風乾の硬さ	表土の粘着性	土壌の乾燥性	透水性	保水性	湿潤性	自然肥力	保肥力	固塩基状態	養分交換性	苦土量	加里量	燐酸量	酸性度	化学的障害	物理的障害	自然傾斜	人為傾斜	侵入傾斜	侵蝕度	耐蝕性	耐風蝕性						
	t	d	g	p		w		f		n				i	s																	
Ⅲ	I	I	I	I	1	1	1	I	1	1	1	Ⅲ	1	3	3	Ⅱ	1	1	3	2	2	I	1	1	Ⅲ	1	—	1	I	1	1	2
簡略分級式 Ⅲ f Ⅱ n																																

A 土壤区の特徴

この土壤区はトライベツ統に属する。トライベツ 1 に比して各火山灰層は薄く Ma-i, Ma-j 層はなく 40~50 cm 以下はローム層に移行する。表土は 25 cm 内外で有効土層は 1 m 以上で深い。耕起、砕土は容易である。透水性は大きく保水性も大きく、過干、過湿の恐れはない。自然肥沃度は低く、特に心土以下の塩基状態は不良である。また塩基に乏しく特に加里、燐酸に乏しい。特殊な障害性はない。地形は平坦で侵蝕のおそれはない。

B 植生および利用状況

牧草地、放牧地に利用されている。

C 地力保全上の問題点

本土壤区も酸性は弱い、特に加里、燐酸の増施を要する。堆肥、尿撒布も効果的である。

D 分 布 北海道厚岸郡厚岸町太田、片無去

記載責任者 後 藤 計 二 (北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和48年3月

太 田 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ10~15cmで腐植含量12~15%、土性はLである。色は10YRで彩度1~2、明度1.7~2。構造は発達弱度の板状或は細粒状である。ち密度は1.8~2.3で中~密。PH(H₂O) 5.4~6.1。下層境界平坦、本層はMe-1a、2a層、Ka-2a、C、d層および矢白別火山灰層の混合する作土。

第2層は厚さ18~25cmで腐植含量18~22%、土性はLである。色はN、10YRで彩度1、明度1~2。構造は発達弱度の細塊状或は粒状である。ち密度1.7~1.8で中。PH(H₂O) 4.7~5.8。下層境界漸変。本層はMa~f1層のA層。

第3層は厚さ7~12cmで腐植含量4~5%、土性はLである。色は10YRで彩度3~4、明度3~6。半風化半角礫(軽石)を含む~富む。構造は発達弱度の細塊状。ち密度は1.3~1.5で中。PH(H₂O) 5.6前後。下層境界明瞭。本層はMe-f₁層のB層。

第4層は厚さ15~20cmで腐植含量10~12%、土性はLである。色は10YRで彩度1~2、明度2~3。未風化小半角礫(軽石)を含む~あり。構造は発達弱度の細塊状。ち密1.3~1.5で中。PH(H₂O) 5.6前後。下層境界は漸変。

第5層は厚さ30~40cmで腐植含量1~4%、土性はLである。色は10YRで彩度4~6、明度4~5。未風化小半角礫(軽石)を含む~あり。構造は発達弱度の塊状。ち密度1.6~1.9で中。下層境界漸変。第4、5層はロームで1m以上の深さを有する。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 北海道厚岸郡厚岸町太田、(牧草畑)

試坑№19

第1層	0~13cm	腐植に頗る富む黒(10YR 2/1)のSiL。発達弱度の板状構造で孔隙あり。粘着性弱。ち密度2.3で密。PH(H ₂ O) 5.4。調査時の湿り半乾。本層はMe-1a、2a、Km-2a、c、d層および矢白別火山灰層の混合した作土。
第2層	13~35	腐植土からなり黒(10YR 1.7/1)のSiL。発達弱度の細塊状構造

		で孔隙に富む。粘着性中。PH (H ₂ O) 5.6。調査時の湿り半乾。境界漸変。本層はMa-f ₁ 層のA層。
第3層	35~42cm	腐植を含む灰黄褐 (10YR 4.5 / 3) のSiL。発達弱度の細塊状構造で孔隙富む。粘着性中。未風化小半角礫 (軽石) を含む。調査時の湿り半乾。境界明瞭。本層はMe-f ₁ 層のB層。
第4層	42~62cm	腐植に頗る富む黒 (10YR 3 / 1) のSL。発達弱度の細塊状構造で孔隙富む。粘着性中。未風化半角礫 (軽石) を含む。PH (H ₂ O) 5.6。調査時の湿り湿。境界漸変。
第5層	62~	腐植を含む灰黄褐 (10YR 4 / 4) のSL。発達弱度の塊状構造で孔隙含む。粘着性中。未風化小半角礫 (軽石) を含む。調査時の湿り潤。酸化沈積物認められず。第4層以下ローム層。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土					
1	0~13	5.7	2.9	42.7	45.6	8.8	SiL	8.23	0.73	11	14.2
2	13~35	11.4	6.6	34.0	49.0	10.4	SL	12.53	0.81	16	21.7
3	42~62	11.6	20.1	51.1	28.8	0	SiL	6.01	0.39	15	10.4

層位	PH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置 換 性 塩 基 me/100g			塩 基 飽 和 度 %	磷酸吸 収係数	有効態燐 mg/100g
	H ₂ O	Kcl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.4	4.7	3.1	24.9	5.9	3.1	0.2	23.7	1.528	2.5
2	5.6	4.6	0.4	44.5	6.1	3.3	0.5	13.7	2.320	2.5
3	5.6	5.2	0.8	29.4	4.1	2.7	0.3	13.9	2.324	2.7

A-2 他の土壌統との関係

本土壌統に類似する統としてトライベツ統、六別統がある。トライベツ統は下層まで湿りが半乾であり土層の腐植含量は一般に少ない。六別統は火山灰層間に薄層の泥炭層が夾在することにより区別される。

A-3 母 材 非固結火成岩

A-4 堆積様式 風積 (火山性)

B 地 形 平坦および波状の凹地

C 気 候 年平均気温 5.6℃、年平均雨量は 1,036mm。春季~夏季に濃霧があり日照少ない。秋季は好天であるが初霜 9月下旬で早い。冬季は積雪少なく土壌は 40~

60 cm凍結する。

D 植生および利用状況

畑は牧草畑あるいは放牧地に利用されている。またカラ松の植林地、ハンノキ、シラカバの林地も存在する。

E 農業上の留意事項

ほぼ1m以内には地下水が存在し、暗渠による排水が必要である。土壌は塩基に乏しく、炭カルとして350~400kgの他苦土、加里の補給を要する。また燐酸吸収係数大きく燐の増施、堆肥、尿撒布による改良が必要で、管理不良地では湿性のスゲ類が牧草を侵害しているところが多くみられる。

F 分布 北海道厚岸郡厚岸町太田、若松

調査および記載責任者 後藤計二 (北海道立中央農業試験場)

年月日 昭和48年3月

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覽

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
太 田 一 太 田	Ⅱ w f n

② 土壌区別説明

示性分級式

土 壤 生 産 力 の 厚 性 等 級	表 土 層 の 深 さ		耕 転 の 難 易			土 地 の 乾 燥 性			透 水 性			保 湿 性			自 然 肥 沃 力			養 分 状 態			障 害			傾 斜			侵 蝕					
	t	d	g	p	w	f	n	置 換 性 灰 土 含 量	() 苦 土 量	() 加 磷 量	() 有 酸 効 態	() 化 学 的 障 害	() 物 理 的 障 害	() 自 然 傾 斜	() 傾 斜 方 向	() 人 為 傾 斜	() 侵 蝕 度	() 耐 風 蝕 性	() 耐 水 蝕 性													
Ⅱ	I	I	I	I	1	1	1	Ⅱ	2	2	2	Ⅱ	1	2	3	Ⅱ	2	1	3	2	2	I	1	1	I	1	—	1	I	1	1	2
簡略分級式 Ⅱ w f n																																

A 土壤区の特徴

この土壤区は太田統に属する。表土の厚さは30cm内外、有効土層は1m以上で深い。粘着性弱く耕起、砕土は容易である。透水性は中庸、凹地状を呈し周辺から集水し過湿のおそれがある。土層の塩基状態は不良で自然肥沃度は低い。酸性を呈し石灰、加里、磷酸に乏しい。特殊な障害性はない。地形平坦で侵蝕の恐れはない。

B 植生および利用状況

牧草地、放牧地に利用されている。

C 地力保全上の問題点

時期的に湿性を呈し牧草が湿性のスゲなどに侵害されているところが多い。従つて暗渠により排水を完備することが必要である。土壤は塩基に乏しく石灰、苦土、加里さらに磷酸の増施を要する。

D 分 布 北海道厚岸郡厚岸町太田、若松

記載責任者 後 藤 計 二 (北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和48年3月

大 別 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ13~20cmで腐植20~27%、土性はSiLで泥炭を混合するが多い。色は10YRで彩度1~2、明度1~2。構造は発達弱度の細塊状或は均質連結状である。ち密度1.5~1.8で中。PH(H₂O)5.8前後。湿り半乾、下層の境界判然。本層はMe-1a、2a層およびKm-2a層の混合層。

第2層は厚さ5~7cmで腐植含量25%以上。ヨシからなる低位泥炭で分解はやゝ良。色は10YRで彩度2~3、明度2~3。ち密度1.0~1.2で疎。PH(H₂O)5.0~5.5。湿り半乾。下層境界平坦明瞭。

第3層は厚さ1~3cmで腐植含量5%内外、土性はSiCである。構造は均質連結状。ち密度は中。下層との境界は明瞭。本層はKm-b層。

第4層は厚さ10~15cmで腐植含量は10%内外、土性はSiCである。色は10YR~10Yで彩度1~2、明度2~6。構造は均質連結状あるいは発達弱度の板状構造。ち密度1.5~1.8で中。PH(H₂O)5.5前後。下層境界漸変。

第5層は厚さ7~12cmで腐植含量2%以下、土性はCLである。色は10Yで彩度1、明度6~7。構造は均質連結状でち密度2.0~2.4で密。グライ層。下層境界は明瞭。第3層、第4層は矢白

別火山灰層。

第6層は厚さ10～15cmで腐植含量2%以下、土性はSLである。半風化小半角礫(軽石)に富む。色は10Yで彩度1、明度5～7。構造は均質連結状。ち密度20～22で密。グライ層。下層境界は明瞭。不明火山灰層。

第7層は厚さ20cm以上で腐植含量2%以下、土性はSLである。半風化小半角礫(軽石)を含む～あり。色は10Yで彩度1、明度5～7。構造は均質連結状。ち密度20～22で密。グライ層。湧水する場合多い。本層はMa-f₁層。

代表的断面形態

(所在地) 北海道厚岸郡厚岸町太田(牧草畑)試坑№22

第1層	0～16cm	腐植土で黒(10YR2/15)のSiL、ヨシの泥炭に富む。構造は均質連結状で孔隙あり。粘着性は弱。ち密度16で中。PH(H ₂ O)5.8。調査時の湿り半乾。下層境界判然。本層はMe-1a、2a層、Km-2a層の混合した作土。
第2層	16～19	腐植を欠く灰黄橙(10YR5/4)のSiL、均質連結状で孔隙あり。粘着性は弱。ち密度12で中。調査時の湿り半乾。下層境界明瞭。本層はKm-2a層。
第3層	19～26	黒褐(10YR2/2)のヨシからなる泥炭層。ち密度12で中。分解やゝ良。PH(H ₂ O)5.4。調査時の湿り半乾。下層境界明瞭。
第4層	26～27	腐植に富む黒褐(10YR2/2)のSL、均質連結状。粘着性弱。調査時の湿り半乾。境界明瞭。Km-b層。
第5層	27～40	腐植に頗る富む暗灰(10Y4/1)のSiC。均質連結状で一部板状構造。孔隙あり。粘着性中。ち密度17で中。PH(H ₂ O)5.5。弱グライ層。調査時の湿り半乾。下層境界判然。
第6層	40～50	腐植を欠く灰白(10Y7/1)のSiC、均質連結状で孔隙あり。粘着性中。ち密度22で密。PH(H ₂ O)5.5。グライ層。調査時の湿り湿。下層境界明瞭。第5、第6層は矢白別火山灰層。
第7層	50～60	腐植を欠く灰(10Y6/1)のSL、均質連結状で孔隙あり。粘着性なし。ち密度20で密。グライ層。調査時の湿り湿。下層境界明瞭。不明火山灰層。
第8層	60～65	腐植を欠く灰(N-6)のCL、均質連結状で孔隙あり。粘着性中。ち密度22で密。グライ層。調査時の湿り湿。下層境界明瞭。不明火山灰層。
第9層	65～	腐植を欠く灰(10Y6/1)のSL、均質連結状で孔隙あり。未風化小半角礫(軽石)を含む。粘着性弱。調査時の湿り湿。本層はMe-f ₁ 層。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒径組成 %				土性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土					
1	0~19	8.6	4.7	38.3	46.1	10.9	SiL	15.31	1.13	14	26.5
2	19~26	2.2	5.2	16.2	50.8	27.8	SiL	13.38	0.94	14	23.2
3	27~50	6.6	1.3	15.6	51.8	31.3	Sic	4.12	0.20	21	7.1

層位	PH		置換酸度 Y ₁	塩基置換 容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			塩基 飽和度 %	磷酸吸 収係数	有効遊離酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.8	5.0	1.3	36.6	21.9	9.3	0.2	59.8	1.342	2.7
2	5.4	4.6	4.0	55.5	17.4	9.3	0.1	31.4	3.96	1.4
3	5.5	4.1	0.4	21.4	5.9	7.5	0.4	27.6	4.80	2.1

A-2 他の土壌統との関係

本土壌統に類似する統としてトライベツ統、太田統がある。両統とも火山灰層間に泥炭が夾在しないことにより区別される。

A-3 母材 非固結火成岩

A-4 堆積様式 風積(火山性)

B 地形 台地上の凹地

C 気候

年平均気温 5.6℃、年平均雨量 1,036mm。春季~夏季は濃霧があり日照は少ない。秋季は好天であるが初霜は9月下旬で早い。冬季は積雪少なく土壌は40~60cm凍結する。

D 植生および利用状況

畑は牧草および放牧地となつているが、放牧地は湿性のため荒廃しているところが多い。またハンノキの林地も多く放牧地に利用されている場合が多い。

E 農業上の留意事項

湿性が著しい。暗渠排水或は小河川の切替え、明渠の完備を要する。また塩基に乏しく炭カル、苦土、加里の補給および磷酸の増施を要する。尿撒布、堆肥の活用が効果的である。

F 分布 北海道厚岸郡厚岸町太田、若松

調査および記載責任者 後藤計二 (北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和48年3月

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
大 別 - 大 別	Ⅲ w Ⅱ t f n

② 土壤区別説明

大 別 - 大 別

示性分級式

土 壤 生 産 力 の 可 能 性 等 級	表 土 層 の 厚 さ	有 効 土 層 の 深 さ	表 土 層 の 含 量	耕 起 の 難 易	土 地 の 乾 燥 性	透 水 性	保 水 性	湿 潤 性	自 然 肥 沃 度	保 固 力	土 層 の 塩 基 状 態	養 分 の 置 換 性	()	()	()	()	障 害 性	傾 斜 性	傾 斜 性	傾 斜 性	侵 蝕 性	耐 蝕 性	耐 風 蝕 性
Ⅲ	t	d	g	p	w				f		n						i	s			e		
Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ
簡略分級式		Ⅲ w Ⅱ t f n																					

A 土壤区の特徴

この土壤区は大別統に属する。表土の厚さ15～20cmであるが有効土層は1m以上で深い。耕起、碎土は容易である。地形凹地状を呈し地下水位高く過湿のおそれが多い。自然肥沃度は中庸であるが表土の養分は加里、燐酸に乏しい。また酸性を呈する。特殊な障害性はない。侵蝕のおそれはない。

B 植生および利用状況

利用地のうち半分内外が牧草地に造成され他は原野のまま放牧地に利用されている。草地は不良なのが多い。原野はハンノキが主で下草はスゲ類が主である。

C 地力保全上の問題点

湿性を呈し火山灰層間に泥炭が夾在されており、河川改修、暗渠の完備を要する。また炭カル、苦土、加里、燐酸の増施を要する。堆肥、尿撒布が牧草の維持に効果的である。

D 分 布 北海道厚岸郡厚岸町太田、若松

記載責任者 後 藤 計 二 (北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和48年3月

尾 幌 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ9~15cmで腐植含量10~15%、土性はSL~L。色は10YRで彩度2~3、明度2~3。構造は発達弱度の粒状で孔隙富む。ち密度1.3~1.7で中。PH(H₂O)5.7~6.1。下層境界明瞭。本層はMe-1a、2a層およびKm-2a、b層の混合層。

第2層は厚さ10~16cmで腐植含量10~12%、土性はL~CL。色は10YRで彩度1~2、明度2~3。構造は発達弱~中度の粒状。ち密度1.4~1.8で中。PH(H₂O)5.0~5.7。下層境界判然。本層は矢白別火山灰のA層。

第3層は厚さ5~8cmで腐植含量8~11%、土性はL~CL。色は10YRで彩度3~4、明度3~4。構造は発達弱度の塊状。ち密度1.6~1.9で中。PH(H₂O)5.7前後。下層境界明瞭。本層は矢白別火山灰のB層。

第4層は厚さ10~20cmで腐植含量7~10%、色は10YRで彩度3~4、明度4~5。土性はL。構造は発達弱度の細塊状、ち密度は1.7~1.8で中。PH(H₂O)6.0前後。下層境界漸変。

第5層は厚さ10~18cmで腐植含量2%内外、色は10YRで彩度4~6、明度5~7。土性はL。構造は発達弱度の塊状。ち密度1.7~2.0で中。PH(H₂O)5.9前後。下層境界判然。

第6層は厚さ40cm以上。腐植含量2%以下、色は10YRで彩度2~3、明度6~8。構造は発達中度の柱状。ち密度1.7~2.4で中~密。酸化沈積物あり。第4~第6層は崩積。

代表的断面形態

(所在地) 北海道厚岸郡厚岸町尾幌(牧草畑) 試坑№1

第1層	0~9cm	腐植に頗る富む黒褐(10YR3/3)のL、発達弱度の粒状構造で孔隙富む。粘着性弱。ち密度1.4で中。PH(H ₂ O)5.7。調査時の湿り半乾。下層境界明瞭。本層はMe-1a、2a層、Km-2a、b層の混合した作土。
第2層	9~25	腐植に頗る富む黒褐(10YR3/2)のSiL、発達中度の粒状構造で孔隙に富む。粘着性中。PH(H ₂ O)5.7。調査時の湿り半乾。下層境界漸変。本層は矢白別火山灰層のA層。

第3層	25~30 cm	腐植に頗る富む灰黄橙(10YR5/4)のL。発達弱度の粒状構造で孔隙に富む。粘着性中。ち密度17で中。PH(H ₂ O)6.0。調査時の湿り半乾。下層境界明瞭。本層は矢白別火山灰層のB層。
第4層	30~48	腐植に頗る富む灰黄褐(10YR4/3)のL。発達弱度の細塊状構造で孔隙に富む。粘着性中。ち密度17で中。PH(H ₂ O)6.0。調査時の湿り半乾。下層境界漸変。
第5層	48~60	腐植に欠く明黄橙(10YR6/6)のL。発達弱度の塊状構で孔を含む。粘着性や強。ち密度17で中。PH(H ₂ O)5.9。調査時の湿湿。下層境界判然。
第6層	60~	腐植に欠く淡黄橙(10YR8/3)のL。発達弱度の柱状構造で孔隙あり。粘着性や強。酸化沈積物あり。ち密度17で中。湿り湿。第4~6層は崩積。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土 性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土					
1	0~9	6.7	5.8	39.1	40.6	14.5	L	7.35	0.49	15	12.7
2	9~25	12.7	7.2	35.3	47.0	10.4	SiL	6.05	0.37	16	10.5
3	25~30	12.3	10.8	47.0	39.6	2.6	L	5.90	0.35	17	10.2
4	30~48	13.4	9.6	52.9	36.0	1.7	L	5.90	0.35	17	10.2
5	48~60	14.1	3.7	57.8	37.7	0.8	L				

層位	PH		置 換 酸 度 Y ₁	塩基置換 容 量 me/100g	置 換 性 塩 基 me/100g			塩 基 飽和度 %	磷酸吸収 係 数	有効態磷 mg/100g
	Hcl	Kcl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.7	4.8	1.3	20.2	5.0	3.5	0.3	24.8	1.858	3.7
2	5.7	4.8	1.9	32.5	5.5	1.9	0.1	16.9	2.302	3.5
3	5.8	5.0	1.3	29.0	3.9	1.6	0.1	13.4	2.392	1.1
4	6.0	5.0	0.9	30.6	3.7	1.6	0.1	12.3	2.436	2.2
5	5.9	5.0	1.3	26.1	3.0	2.3	0.2	11.5	2.400	2.2

A-2 他の土壌統との関係

本土壌統に類似する統としてトライベツ統、太田統がある。トライベツ統は下層まで火山灰層が累積し酸化沈積物は認められず、太田統は下層まで火山灰が累積するので夫々区別される。

A-3 母 材 非固結火成岩

A-4 堆積様式 風積(火山性) / 水積(崩積)

B 地形 傾斜地

C 気候

年平均気温 5.6℃、年平均雨量 1,036mm、春季～夏季に濃霧があり日照は少ない。秋季好天であるが初霜 9月下旬で早い。冬季は積雪少なく土壌は 40～60cm凍結する。

D 植生および利用状況

畑は全面牧草地であるが、カラマツの植林地、シラカバ、ナラの山林も存在する。

E 農業上の留意事項

土壌管理が粗放で塩基に乏しい。炭カルの施用、燐酸の増施、堆肥、尿撒布による加里の補給等、土壌管理、土壌の肥培に特に留意を要する。

F 分布 北海道厚岸郡厚岸町尾幌

調査および記載責任者 後藤 計二 (北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和 48 年 3 月

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
尾 幌 一 尾 幌	III f II twns

② 土壌区別説明

示性分級式

土 壤 生 産 力 の 可 能 性 等 級	表 効 土 層 の 厚 さ	表 土 粒 の 含 量	耕 耘 の 難 易	土 地 の 乾 湿 性	自 然 潤 肥 沃 度	養 分 の 塩 基 状 態	障 害 的 障 害 性	傾 斜 的 障 害 性	侵 蝕 的 傾 斜 性	侵 蝕 的 傾 斜 性
	t	d	g p	w	f	n	i	s	e	
III	II	I	I I	I I I	II	II	I	II	I	II
	1	1	1	2	2	2	1	2	3	2
	1	1	1	1	3	3	1	1	1	1
	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
簡略分級式	III f II twns									

A 土壌区の特徴

この土壌区は尾幌統に属する。表土は20～25cmで有効土層は1m以上で深い。粘着性は弱く耕起、砕土は容易である。透水性は中庸で過湿のおそれがある。固定力大きく土層の塩基状態は不良で自然肥沃度は低い。石灰、加里、磷酸に乏しい。特殊な障害性はない。傾斜地で3～4度であるが侵蝕のおそれは少ない。

B 植生および利用状況

牧草地、放牧地に利用されているが、荒廃草地も多く見受けられ管理は不良である。

C 地力保全上の問題点

斜面で台地よりの滲透水が多くやゝ湿性を呈する。暗渠により排水を要する。石灰、加里、磷酸の増施を要する。また堆肥、尿撒布も効果的である。

D 分 布 北海道厚岸郡厚岸町尾幌、片無去

記載責任者 後 藤 計 二 (北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和48年3月

上 尾 幌 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ12～20cmで腐植含量2～4%、土性はCL～LICである。色は10YRで彩度2～3、明度4～5。構造は発達弱度の粒状および細塊状。ち密度は1.0～1.8で中。

pH(H₂O) 5.1～5.8。下層との境界判然。

第2層は厚さ20～50cmで腐植含量は2%以下、土性はCL～LICである。色は10YRで彩度3～4、明度4～6。構造は発達大～中度の細塊状～塊状。ち密度1.3～1.6で中。pH(H₂O) 5.1～5.5。下層との境界判然～やゝ明瞭。

第3層は厚さ40cm以上で腐植含量2%以下、土性はCLとSLの偽層からなる場合が多い。色は10YRで彩度2～3、明度5～7。構造は発達中度の塊状で土性SLの部分は均質連結状あるいは弱度の粒状を呈する。ち密度は1.3～1.6で中。尚一部湿性を呈し酸化沈積物を含むところもある。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地)北海道厚岸郡厚岸町上尾幌(牧草畑)試坑163

第1層	0～13cm	腐植を含む灰黄褐(10YR5/2)のCL。発達弱度の細粒状、細塊状構造で孔隙富む。粘着性は中。ち密度1.0で中。
-----	--------	--

		pH(H ₂ O) 5.8。調査時の湿り半乾。下層境界判然。
第2層	13~60cm	腐植を欠く鈍黄橙(10YR6/3)のLiC。発達強度の細塊状構造で孔隙に富み、管に富む。粘着性强。ち密度14で中。 pH(H ₂ O) 5.2。調査時の湿り半乾。下層境界判然。
第3層	60~	腐植を欠く鈍黄橙(10YR6/3)のCL。発達中程度の細塊状構造で孔隙に富み、管に富む。粘着性は中~強。ち密度15で中。 調査時の湿り半乾。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土					
1	0~13	3.4	9.7	34.6	33.9	21.8	CL	1.58	0.13	12	2.7
2	13~60	4.2	6.5	29.6	37.9	26.1	LiC				

層位	pH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容 量 me/100g	置換性塩基 me/100g			塩 基 飽和度 %	磷酸吸 収係数	有効態 磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.8	4.5	3.1	19.0	7.7	6.9	0.2	61.1	758	6.4
2	5.2	4.0	25.6	22.3	9.8	7.6	0.2	34.5	746	2.9

A-2 他の土壌統との関係

本土壌に類似する統として厚岸統、糸魚沢統などがある。両土壌統は何れも下層がグライ層を呈するので本土壌統と区分される。

A-3 母 材 非固結水成岩

A-4 堆積様式 水積(河成)

B 地 形 平坦な低地

C 気 候 年平均気温 5.6℃ 年平均雨量 1036mm。春季~夏季は濃霧があり日照は少ない。秋季は好天であるが初霜は9月下旬で早い。冬季は積雪少なく土壌は40~60cm凍結する。

D 植生および利用状況

畑は牧草に利用されているが、狭長なため一部荒廃しているところもある。

E 農業上の留意事項

火山性の地域に比較し自然肥沃度は高いので、堆肥の施用等土壌管理に留意し肥沃度の維持を図るべきである。

F 分 布 北海道厚岸郡厚岸町上尾幌、ボンノ沢、オタククパウシ沢

調査および記載責任者 後藤 計 二 (北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和48年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
上尾幌一上尾幌	II p f n

② 土壌区別説明

示性分級式

土 壤 生 産 力 可 能 性 等 級	表 土 層 厚 さ	有 効 土 層 深 さ	表 土 粘 着 性	耕 起 難 易	土 地 乾 湿 性	自 然 肥 沃 度	養 分 塩 基 状 態	障 害 性	傾 斜 向 斜	侵 蝕 度			
(耐 風 蝕 性)	(耐 水 蝕 性)	(耐 風 乾 硬 性)	(粘 着 性)	(易 難)	(透 透 性)	(保 保 性)	(固 固 力)	(置 換 性)	(有 効 効 度)	(化 学 的 障 害)	(自 然 傾 斜)	(人 為 傾 斜)	(耐 風 蝕 性)
t	d	g	p	w	f	n	i	s	e				
II	I	I	I	II	2	2	2	I	1	1	I	1	1

簡略分級式 II p f n

A 土壌区の特徴

この土壌区は上尾幌統に属する。表土は30~40cmで深く、有効土層も1m以上で深い。粘着性を有し耕起、砕土がやゝ困難である。自然肥沃度は中庸であるが、加里、磷酸にやゝ乏しい。特殊な障害性はない。地形平坦で侵蝕のおそれはない。災害性のおそれもない。

B 植生および利用状況

牧草地に利用されており、生産性は高い。

C 地力保全上の問題点

腐植含量少なく地力維持として、また牧草地であることから加里の要求度高く堆肥、尿撒布が効果的である。

D 分 布 北海道厚岸郡厚岸町上尾幌、ボンノ沢、オタツクパウシ

記載責任者 後 藤 計 二 (北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和48年3月31日

厚 岸 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15～25cmで腐植含量は2～7%、土性はSiCである。色は10YR2～3、明度4～6。構造は発達弱度の板状或は均質連結状の場合もある。ち密度1.8～2.3で中～密。酸化沈積物あり、pH(H₂O) 5.2～5.9。下層との境界明瞭。

第2層は厚さ2～6cmで腐植含量は2%以下、土性はSである。色は10YRで彩度2～3、明度6～8。構造は均質連結状。ち密度1.4～1.7で中。下層との境界明瞭。本層はMe-Ia、2a層。

第3層は厚さ70cm以上で腐植含量は2%以下、土性はHC～SiCである。色は10YR～5Yで彩度1～2、明度5～7。構造は均質連結状であるが一部には本層の上部が発達中度の塊状構造を呈する。ち密度1.3～1.8で中。酸化沈積物を含むグライ層。60～70cmで湧水する場合が多い。pH(H₂O) 5.2前後。

代表的断面形態

(所在地) 北海道厚岸郡厚岸町尾幌原野(牧草地)試坑165

第1層	0～17cm	腐植を含む灰黄橙(10YR6/5)のSiC。発達弱度の板状構造で粘着性強。ち密度1.8で中。酸化沈積物あり。PH(H ₂ O) 5.9。調査時の湿り半乾。下層境界明瞭。
第2層	17～20	腐植に富む黄褐灰(10YR4/1)のSL。発達弱度の細塊状構造で孔隙に富み、粘着性中。ち密1.4で中。酸化沈積物あり。調査時の湿り半乾。下層境界判然。
第3層	20～25	腐植を欠く淡黄褐灰(10YR8/2.5)のS。均質連結状で孔

		際に富む。粘着性弱。調査時の湿り半乾。下層境界明瞭。第2、第3層はMe-1a、2a層
第4層	25~50cm	腐植を欠く黄褐灰(10YR6/1)のHC。発達中度の塊状構造で孔隙を含む。粘着性强。酸化沈積物を含むグライ層。ち密度1.8で中。pH(H ₂ O)5.1。調査時の湿り半乾。下層境界判然。
第5層	50~	腐植を欠く淡黄褐灰(10YR7/1)のSiC。均質連結状で孔隙あり。粘着性强。酸化沈積物を含むグライ層。ち密度1.8で中。pH(H ₂ O)5.2。調査時の湿り湿~潤。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土					
1	0~17	5.0	0.6	9.6	47.8	42.0	SiC	1.84	0.17	1.1	3.2
2	25~50	7.7	0.1	5.0	29.7	65.2	HC	3.49	0.13	1.1	6.0
3	50~	4.8	0.3	14.4	48.5	36.8	SiC				

層位	pH		置換酸度 Y1	塩基置換容 me/100g	置換性塩基 me/100g			塩基飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.9	4.7	1.3	24.2	16.2	6.4	0.2	66.9	1.014	3.5
2	5.1	4.0	29.4	35.1	11.0	9.5	0.2	31.3	1.324	2.4
3	5.2	3.9	23.5	23.5	7.4	2.0	0.2	31.5	9.24	2.9

A-2 他の土壌統との関係

本土壌統に類似する統として上尾幌統、糸魚沢統などがある。上尾幌統は下層にグライ層がないかあるいは70cm以内に出現することはない。糸魚沢統は下層が砂礫層となることにより夫々区別される。

A-3 母材 非固結水成岩

A-4 堆積様式 水積(河成堆積)

B 地形 平坦な低地。

C 気候 年平均気温5.6℃、年平均雨量1,036mm、春季~夏季に濃霧があり日照は少ない。秋季好天であるが初霜9月下旬で早い。冬季は積雪少なく土壌は40~60cm凍結する。

D 植生および利用状況

ほぼ全域が牧草地に利用されている。

E 農業上の留意事項

河川の改修、明暗渠の完備による排水を完全にすることが必要である。

F 分布 北海道厚岸郡厚岸町尾幌原野

調査および記載責任者 後 藤 計 二 (北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和48年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
厚 岸 一 厚 岸	Ⅲ p w Ⅱ t f n

② 土壌区別説明

示性分級式

土 壤 生 産 力 の 可 能 性 等 級	表 土 層 の 厚 さ	表 土 層 の 容 積 比	耕 作 性	土 質	自 然 肥 沃 度	養 分 定 量	障 害 性	傾 斜	侵 蝕 性
t d g p	Ⅱ I I Ⅲ	3 3 2	Ⅲ	2 2 3	Ⅱ 1 2 2	Ⅱ 1 1 2 2 2	I 1 1	I 1 - 1	I 1 1 1
Ⅲ	Ⅱ I I Ⅲ	3 3 2	Ⅲ	2 2 3	Ⅱ 1 2 2	Ⅱ 1 1 2 2 2	I 1 1	I 1 - 1	I 1 1 1
簡略分級式 Ⅲ p w Ⅱ t f n									

A 土壌区の特徴

この土壌区は厚岸統に属する。表土は20cm内外で有効土層は1m以上で深い。粘着性強く、砕土はやゝ困難である。地下水位高く下層グライ層となり過湿のおそれが多い。自然肥沃度は中庸であるが加里、燐酸にやゝ乏しい。特殊な障害性はない。地形平坦で侵蝕の恐れはない。災害性の恐れもない。

B 植生および利用状況

ほぼ全域牧草地に利用されている。

C 地力保全上の問題点

低地にあつて地下水位が一般に高い。明渠、暗渠の完備を要する。草地であり、加里、磷酸の増施を要する。また地力の維持上から堆肥、尿撒布が効果的である。

D 分 布 北海道厚岸郡厚岸町尾幌

記載責任者 後 藤 計 二 (北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和48年3月31日

糸 魚 沢 統

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15~25cmで腐植含量5~8%、土性はCL~Lである。色は10YR~5Yで彩度1~3、明度4~5。発達弱度の板状構造。ち密度1.8で中。酸化沈積物を含む弱グライ層。pH(H₂O) 6.0前後。下層境界明瞭。

第2層は厚さ50cm以上で未風化小、中円礫層。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 北海道厚岸郡厚岸町糸魚沢(牧草地) 試坑169

第1層	0~20cm	腐植に富む黄褐灰(2.5Y5/2)のCL。未風化小円礫を含む。発達弱度の板状構造で孔隙に富む。粘着性弱。酸化沈積物を含む。弱グライ層。pH(H ₂ O) 6.0。調査時の湿り半乾。
第2層	20~	未風化小、中円礫層

代 表 的 断 面 の 分 析 成 績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土					
1	0~20	3.2	26.4	22.9	3.11	19.6	CL	3.94	0.26	15	6.8

層位	pH		置換酸度 Y ₁	塩基置換 容 量 me/100g	置換性塩基 me/100g			塩 基 飽和度 %	磷酸吸 収係数	有 効 態 磷 酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	6.0	5.0	1.8	21.1	11.6	5.6	11	55.0	738	3.8

A-2 他の土壌統との関係

本土壌に類似する統として上尾幌統、厚岸統などがある。上尾幌統、厚岸統は何れも下層まで土性が埴質であり砂礫層が出現しないので区分される。

A-3 母 材 非固結水成岩

A-4 堆積様式 水積（河成堆積）

B 地 形 平坦な低地

C 気 候 年平均気温 5.6℃、年平均雨量 1036mm。春季～夏季に濃霧があり日照は少ない。秋季好天であるが初霜9月下旬で早い。冬季は積雪少なく土壌は40～60cm凍結する。

D 植生および利用状況

小沢に分布し、放牧地に主として利用されている。

E 農業上の留意事項

小沢に分布し河川は蛇行し有効土層が浅い。現状の放牧地に利用することが得策である。

F 分 布 北海道厚岸町糸魚沢

調査および記載責任者 後 藤 計 二（北海道立中央農業試験場）

年 月 日 昭和48年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区の一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
糸 魚 沢 一 糸 魚 沢	III di II twfn

② 土壌区別説明

糸 魚 沢 一 糸 魚 沢

示性分級式

土壌生産力可能性等級	表土の厚さ	有効土層の深さ	表土の耕起の難易	耕地の土質	土壌の透水性	土壌の保水性	自然肥沃度	自肥力	養分塩基状態	養分交換性	置換性	苦土含量	有効態加里酸度	酸化物理的障害	物理的障害	傾斜	人為的傾斜	人為的傾斜	侵蝕	耐蝕性	耐風蝕性											
Ⅲ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅰ	Ⅰ	2	2	1	Ⅱ	1	1	3	Ⅱ	1	2	1	Ⅱ	1	1	1	2	2	Ⅲ	1	3	Ⅰ	1	—	1	Ⅰ	1	1	1
簡略分級式 Ⅲ d i Ⅱ t w f n																																

A 土壌区の特徴

この土壌区は糸魚沢統に属する。表土は15～25cmで有効土層は50cm以下で浅い。表土は未風化小円礫を含むが支障はなく、耕起、碎土は容易である。透水性は大きい、低地で地下水位高く過湿のおそれがある。自然肥沃度は中庸、燐酸に乏しい。物理的障害性は大きい。平坦で侵蝕は認められない。氾濫による災害性の恐れがある。

B 植生および利用状況

牧草地もあるが小河川の流域にあつて狭長なため放牧地に主に利用されている。

C 地力保全上の問題点

河川の改修により下層が砂礫土であるため水位の低下は図れるところである。養肥分の流亡が考えられるので施肥に留意を要する。

D 分布 北海道厚岸郡厚岸町糸魚沢

記載責任者 後藤 計二 (北海道立中央農業試験場)

年月日 昭和48年3月31日

尾 幌 原 野 統

(1) 土壤統の概要

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ10～25cmで腐植含量は30%以上でヨシからなる低位泥炭、分解やゝ良。色は7.5YR～10YRで彩度2～3、明度2～4。ち密度6～10で疎。pH(H₂O) 4.9～5.3。下層境界明瞭。

第2層は厚さ2～4cmで腐植含量2～3%、土性はSL。色は10YRで彩度2～3、明度7～8。均質連結状。ち密度10で疎。下層境界明瞭。本層はMe-1a層。

第3層は厚さ3～5cmで腐植含量30%以上でヨシからなる低位泥炭。分解は不良。色は7.5YRで彩度2、明度2～4。ち密度は疎。下層境界明瞭。

第4層は厚さ5～7cmで腐植含量5%内外、土性はSL～Lで泥炭を含む。色は10YRで彩度2～3、明度7～8。ち密度疎～中。下層境界明瞭。本層はMe-2a層。

第5層は厚さ100cm以上で腐植含量40%以上でヨシおよびハンノキの低位泥炭。分解はやゝ良。ち密度は疎。pH(H₂O) 4.9前後。30～60cmで湧水。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 北海道厚岸郡厚岸町尾幌(放牧地) 試坑16.4

第1層	0～20cm	黒褐(7.5YR 2/2)のヨシ。分解はやゝ良。ち密6で疎。pH(H ₂ O) 5.0。調査時の湿り湿。境界明瞭。
第2層	20～25	腐植を含む灰黄橙(10YR 7/3)のSL。調査時の湿り湿。境界明瞭。Me-1a。
第3層	25～27	黒褐(7.5YR 3/2)のヨシ。分解不良。調査時の湿り湿。境界明瞭。
第4層	27～30	腐植を欠く淡黄橙(10YR 8/3)のSL。調査時の湿り湿。境界明瞭。Me-2a。
第5層	30～55	灰褐(7.5YR 5/3)のヨシ。分解やゝ良。ち密度7で疎。pH(H ₂ O) 5.2。調査時の湿り潤。湧水45cm。境界判然。
第6層	55～	黒褐(10YR 2/2)のヨシ、ハンノキ。粘土混合やゝ多い。分解やゝ良。ち密度8で疎。調査時の湿り潤。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 %	水分 %	粒 径 組 成 %				土性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土					
1	0~20	8.2	0.6	23.8	43.7	31.9	LiC	19.43	1.59	12	33.6
2	20~30	3.6	5.1	39.3	45.9	9.7	L	6.84	0.46	15	11.8
3	30~55	8.6						26.05	1.70	15	45.1

層位	pH		置換酸度 Y1	塩基置換容 量 me/100g	置換性塩基 me/100g			塩基飽和度 %	磷酸吸 収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.0	4.1	20.0	45.7	9.8	7.6	0.2	21.4	356	1.4
2	5.2	4.4	5.0	13.3	2.5	3.1	0.02	18.8	694	4.5
3	4.9	4.1	17.2	44.9	16.8	8.4	0.2	37.4	422	1.9

A-2 他の土壌統との関係

本土壌統に類似する統として大別統、厚岸統、糸魚沢統などがある。大別統は泥炭層が薄層で火山灰層中に夾在し、厚岸統、糸魚沢統は泥炭層が土層中不在により夫々区別される。

A-3 母材 ヨシ

A-4 堆積様式 集積（低位泥炭）

B 地形 平坦な低地

C 気候 年平均気温5.6℃、年平均雨量1,036mm、春季～夏季に濃霧があり日照は少ない。秋季好天であるが初霜9月下旬で早い。冬季は積雪少なく土壌は40～60cm凍結する。

D 植生および利用状況

畑は全面牧草地に利用されているが、明渠、暗渠などによる排水は不十分で地下水位高く、ヨシ、ハンノキの自生する原野も多い。

E 農業上の留意事項

明渠の整備を要する。尚明渠は溝の側面は崩壊しやすく渠を浅くし排水を阻止しているところが多く、幹線、支線の明渠を再整備が望ましい。次いで地下水位の一定化を図るための切断排水工法が必要である。酸性強く塩基に乏しい。炭カル、苦土、加里の補給はゆるがせにできない。

F 分布 北海道厚岸町尾幌原野

調査および記載責任者 後藤 計二（北海道立中央農業試験場）

年月日 昭和48年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覽

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
尾 幌 原 野 一 尾 幌 原 野	Ⅲ w f n Ⅱ t

② 土壌区別説明

尾 幌 原 野 一 尾 幌 原 野

示 性 分 級 式

土 壤 生 産 力 の 可 能 性 等 級	表 効 土 層 の 厚 さ	有 効 土 層 の 深 さ	表 土 の 磔 含 量	耕 耘 の 難 易	土 地 の 乾 湿	透 水 性	保 水 性	湿 潤 度	自 然 肥 沃 度	保 肥 力	固 定 力	養 分 分 割 状 態	置 換 性	苦 灰 含 量	有 効 加 里 酸 度	酸 性 度	障 害 性	物 理 的 障 害	傾 斜 方 向	傾 斜 度	侵 蝕 性	耐 蝕 性	耐 風 蝕 性	
Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅲ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ
簡 略 分 級 式 Ⅲ w f n Ⅱ t																								

A 土壌区の特徴

この土壌区は尾幌原野統に属する。表土は10～25cmで有効土層は1m以上で深い。泥炭で耕起、碎土は容易である。地下水位高く過湿のおそれが多く、一部は過湿のおそれが甚しいところがある。土層の塩基状態は不良で自然肥沃度は低い。養分のうち加里、磷酸に乏しい。特殊な障害性はない。地形は平坦で侵蝕の恐れはない。氾濫等による災害性がある。

B 植生および利用状況

明渠など漸次改良が進められ牧草地および放牧地に利用されているが、いまだ原野のところも多い。

C 地力保全上の問題点

明渠、暗渠の完備を要する。明渠は側面が崩壊しやすく排水効率を阻害しており、これらの対策

を進めるべきである。草地は加里の要求度高く、保肥力も弱いので加里の増施は勿論、堆肥、尿撒布を活用すべきである。また炭カル、苦土の補給、さらに磷酸の増施もゆるがせにできない。

D 分 布 北海道厚岸郡厚岸町尾幌原野

記載責任者 後 藤 計 二 (北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和 4 8 年 3 月 3 1 日

3. 保全対策地区区分および説明

〔畑〕

1) 保全対策区の説明

土壌断面の性状、土壌改良対策などを考慮のうえ、次の5保全対策地区を設定した。

保全対策地区名	該当土壌区名	面積 (ha)	主な特徴	重要な保全対策
トライベツ	トライベツ-1 トライベツ-2 トライベツ-3	620 250 1260	自然肥沃度低く、養肥分に乏しい。 固定力大きく磷酸に乏しい。	石灰の施用。熔燐による苦土、磷酸の補給、堆肥施用、尿撒布、加里の増施
太田	太田 大別 尾幌	70 2 120	過湿のおそれが多い。 自然肥沃度低く養肥分乏しい。 固定力大きく磷酸に乏しい	暗渠排水。石灰の施用。 熔燐による苦土、磷酸の補給。堆肥施用、尿撒布。 加里の増施。
上尾幌	上尾幌	45	有機物含量少ない。	堆肥施用、尿撒布、 加里の増施。
厚岸	厚岸 糸魚沢	1381 1	過湿のおそれが多い。 有機物含量少ない。	河川改修、明暗渠完備、 堆肥、尿撒布
尾幌原野	尾幌原野	240	過湿のおそれが多い。 鉍質土に乏しい。 酸性強く、塩基に乏しい。	明暗渠完備、客土、石灰の 施用、加里の増施、堆肥施 用、尿撒布

2) 保全対策地区説明

<トライベツ保全対策地区>

(1) 分布

郡市町村名	畑面積	備考 (該当土壌区名)
厚岸郡厚岸町	2130	トライベツ-1、トライベツ-2、トライベツ-3、

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全との問題点

① 特徴と問題点

土壌は火山性の壤土型で軽鬆である。自然肥沃度は低く塩基含量に乏しい。また固定力大きく磷酸に乏しい。

② 営農の方向

酪農経営が行われており、牛舎等かなり改善が行われているが、堆肥場、尿溜等の施設とそれらの撒布器に至つては極めて不備であり、草地の荒廃化防止、地力の維持の面からもこれら施設、機器の整備が望まれる。本町は経営面積が小さく今後の多頭飼育をめざす点から面積の拡大が望まれる。

③ 地力保全対策

対策の種類	対象地及び面積(ha)	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量
塩基増加	2,130	炭カル、熔燐、堆肥、尿撒布	炭カル：280—350Kg/10a、ライムソア 熔燐：100Kg/10a 堆肥舎、尿溜、尿撒布器

< 大別保全対策地区 >

(1) 分布

郡市町村名	畑面積(ha)	備考(該当土壌区)
厚岸郡厚岸町	192	太田、大別、尾幌

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全の問題点

① 特徴と問題点

本地区は地下水位が高く湿性を呈すること、土壌は火山性で固定力強く塩基に乏しい。

② 営農の方向

酪農による主畜経営である。前トライベツ地区内に夾在しており、営農の方向は同一で、経営面積の拡大、堆肥舎、尿溜め、尿撒布器等の施設、機器の完備が地力増強の面から望ましい。

③ 地力保全対策

対策の種類	対象地及び面積(ha)	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量
排水 塩基の増加	192	明渠、暗渠の完備、炭カル、熔燐、加里、堆肥、尿撒布	炭カル：240—350Kg/10a 熔燐：100Kg以上/10a 堆肥舎、尿溜、尿撒布器

< 上尾幌 保全対策地区 >

(1) 分 布

郡市町村名	畑面積 (ha)	備 考 (該当土壌区)
厚岸郡厚岸町	45	上尾幌

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全の問題点

① 特徴と問題点

構造発達しかつ孔隙の多い細粒質の沖積土で生産性が高い。

② 営農の方向

酪農経営が行なわれているが、経営面積が小さい。経営規模拡大を要する。牛舎等はかなり改善されているが、堆肥場、尿溜等の施設とそれらの撒布器は極めて不備である。地力の維持の面からも完備が望まれる。

③ 地力保全対策

対策の種類	対象地及び面積 (ha)	実 施 方 法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量
腐植の増加 塩基の増加	45	堆肥、尿撒布、炭カル 熔燐、加里増施	堆肥舎、尿溜、尿撒布器、 炭カル：180~240Kg/10a 熔 燐： 80~100Kg/10a

< 厚岸 保全対策地区 >

(1) 分 布

郡市町村名	畑面積 (ha)	備 考 (該当土壌区)
厚岸郡厚岸町	1382	厚岸、糸魚沢

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全の問題点

① 特徴と問題点

地下水位高く過湿の恐れが多い沖積地である。生産性は高いが管理が粗放であり地力維持対策として堆肥、尿撒布、熔燐の増施、加里の増施等に留意すべきである。

② 営農の方向

酪農が行なわれている。経営面積が特に本町でも小さく面積の拡大が必要である。堆肥場、尿溜の設置、尿撒布器の整備が望まれる。

③ 地力保全対策

対策の種類	対象地及び面積 (ha)	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量
排水 塩基の増加	1,382	暗渠、明渠 炭カル、熔燐、堆肥 尿撒布	炭カル：200～370Kg/10a 熔燐：80～100Kg/10a 堆肥舎、尿溜、尿撒布器

< 尾幌原野保全対策地区 >

(1) 分布

郡市町村名	畑面積 (ha)	備考 (該当土壌区)
厚岸郡厚岸町	240	尾幌原野

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全の問題点

① 特徴と問題点

現在漸次改良が進められているが、いぜん地下水位は高い。明渠を完備し、さらに切断して水位の一定化を図るべきである。また塩基に乏しく特に炭カル、加里の施用による改良が必要である。また燐酸の増施もゆるがせにできない。また保肥力を大きくする上から鉍質土の客土が望ましい。

② 営農の方向

酪農経営である。現在経営面積が小さく拡大を要する。牧草地であり泥炭においては特に加里欠乏が発生しやすく、尿撒布器を整備し活用すべきである。

③ 地力保全対策

対策の種類	対象地及び面積 (ha)	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量
排水 塩基の増加	240	明渠の完備及び浚渫 切断暗渠の実施、暗渠 炭カル、熔燐、堆肥、 尿撒布	炭カル：300～500Kg/10a 熔燐：100Kg/10a 堆肥舎、尿溜、尿撒布器

1) 土壌分析成績(畑)

保 全 対 策 区	土 地 層	深 さ cm	理 学 性																
			磔 (風 乾 物 中) %	風乾細 土 中		細 土 無 機 物 中						土 性	現地における理学性 100cc 容中						
				水 分 %	腐 植 %	粗 砂 %	細 砂 %	砂 合 計 %	シ ル ト %	粘 土 %	容 積 重 ♀		固 相 容 積 cc	水 分 容 積 cc	空 気 容 積 cc	孔 隙 率 %			
ト ラ イ ベ ツ 1 1	ト ラ イ ベ ツ 1 1	1	0~13	—	42	124	24	449	47.1	427	102	L	—	—	—	—	—		
		2	13~25	—	7.5	126	33	41.8	45.1	49.5	54	SiL	—	—	—	—	—		
		3	25~37	—	8.7	131	9.6	36.7	46.3	49.9	38	SiL	—	—	—	—	—		
		4	37~46	—	10.4	9.9	17.8	68.0	85.8	14.2	0	S	—	—	—	—	—		
		5	46~50	—	5.1	1.9	22.6	55.0	77.6	22.4	0	SL	—	—	—	—	—		
		6	50~75	—	7.6	—	20.5	46.2	66.7	33.3	0	SL	—	—	—	—	—		
	ト ラ イ ベ ツ 2	ト ラ イ ベ ツ 2	1	0~15	—	4.9	10.6	2.9	3.69	3.98	4.55	1.47	SiL	—	—	—	—	—	
			2	15~25	—	7.5	11.1	5.3	3.75	4.28	4.75	9.7	L	—	—	—	—	—	
			3	25~40	—	9.2	10.6	11.5	4.21	5.36	4.11	5.3	L	—	—	—	—	—	
	ト ラ イ ベ ツ 3	ト ラ イ ベ ツ 3	1	0~15	—	6.0	1.49	3.3	4.01	4.34	4.66	1.00	SiL	—	—	—	—	—	
			2	15~34	—	11.5	11.3	8.6	4.40	5.26	4.74	0	SiL	—	—	—	—	—	
			3	34~49	—	8.0	4.7	3.27	4.11	7.38	2.62	0	SL	—	—	—	—	—	
			4	49~65	—	11.8	10.2	1.67	4.92	6.59	3.41	0	SL	—	—	—	—	—	
			5	65~	—	9.8	—	1.62	5.58	7.20	2.80	0	SL	—	—	—	—	—	
		ト ラ イ ベ ツ 3	ト ラ イ ベ ツ 3	1	0~10	—	4.6	11.2	2.2	4.22	4.44	4.63	9.3	SiL	—	—	—	—	—
				2	10~25	—	11.8	1.58	8.3	3.39	4.24	5.49	2.9	SiL	—	—	—	—	—
				3	25~35	—	15.5	9.3	1.26	4.74	6.00	4.00	0	L	—	—	—	—	—
				4	35~42	—	1.28	9.9	1.54	5.1.3	6.6.7	3.3.3	0	SL	—	—	—	—	—
5				42~55	—	1.0.9	6.0	2.0.1	5.4.4	7.4.5	2.5.5	0	SL	—	—	—	—	—	
6				55~	—	6.9	—	2.2.9	5.6.6	7.9.5	1.9.0	1.5	SL	—	—	—	—	—	
大 別 田				太 田	19	1	0~13	—	5.7	1.42	2.9	4.27	4.56	4.56	8.8	SiL	—	—	—
	2	13~42	—			11.4	2.1.7	6.6	3.4.0	4.0.6	4.9.0	1.0.4	SiL	—	—	—	—		
	3	42~62	—			11.6	1.0.4	2.0.1	5.1.1	7.1.2	2.8.8	0	SL	—	—	—	—		
	6	6	1	0~15	—	6.8	1.5.8	4.3	3.7.0	4.1.3	4.1.4	1.7.3	CL	—	—	—	—		
			2	15~23	—	1.0.8	1.3.9	9.1	3.1.7	4.0.8	5.6.7	2.5	SiL	—	—	—	—		
			3	23~33	—	11.6	1.1.0	1.2.1	3.4.4	4.6.5	5.3.5	0	SiL	—	—	—	—		

化 学 性												
p H		置 換 酸 度 Y ₁	有 機 物			塩 基 置 換 容 量 me/ 100g	置 換 性 塩 基 mg/100g			石 灰 飽 和 度 %	磷 酸 吸 收 係 數	有 効 態 磷 酸 mg/100g
H ₂ O	KCl		T-C %	T-N %	C/N		CaO	MgO	K ₂ O			
5.9	4.9	1.9	7.17	0.50	1.4	21.3	2225	253	38	3.7	1.414	2.1
5.8	4.9	1.9	7.30	0.38	1.9	28.5	1006	49.7	3.5	1.3	2.106	1.8
5.8	5.0	1.9	7.59	0.42	1.8	31.1	129.0	44.1	5.1	1.5	2.222	2.1
5.8	5.2	0.6	5.73	0.37	1.6	26.1	41.3	45.9	6.1	6	2.302	2.1
6.0	5.7	0.9	1.07	0.07	1.5	8.9	52.1	17.8	5.3	2.1	1.368	0.9
5.9	5.6	0.6	—	—	—	13.8	38.8	15.7	8.9	1.0	1.946	2.1
6.0	5.0	1.3	6.12	0.41	1.5	23.6	536.8	78.5	5.8	8.1	1.280	1.6
6.0	5.4	1.3	6.41	0.42	1.5	27.5	460.7	84.3	3.5	6.0	1.858	1.4
6.0	5.5	1.3	6.12	0.38	1.6	30.2	191.4	25.3	4.0	2.3	2.240	1.6
5.5	4.6	0.4	8.59	0.55	1.6	28.1	199.3	49.8	7.9	2.5	1.546	1.4
5.8	5.0	0.6	6.52	0.35	1.9	26.4	98.9	20.0	2.0	1.3	2.248	2.3
5.9	5.7	0.6	2.69	0.17	1.6	12.4	18.3	26.3	3.5	6	1.964	2.1
5.9	5.5	0.6	5.87	0.35	1.7	26.5	86.5	41.2	2.6	1.2	2.302	2.3
6.0	5.7	0.6	—	—	—	13.8	56.0	31.3	4.0	1.5	2.214	2.7
5.8	5.1	1.4	6.49	0.50	1.3	21.4	288.0	95.5	21.4	4.8	1.112	2.7
5.8	4.8	2.5	9.14	0.48	1.9	39.0	108.1	59.4	26.1	1.0	2.418	2.4
5.9	5.1	1.8	5.36	0.32	1.7	24.1	33.1	47.7	18.0	5	2.400	2.4
5.8	5.2	1.3	5.72	0.35	1.6	27.5	33.5	49.9	8.8	4	2.426	2.9
5.9	5.4	0.6	3.46	0.20	1.7	18.4	12.6	58.8	5.6	2	2.222	2.9
6.0	5.6	3.1	—	—	—	9.0	6.0	56.3	27.1	2	1.626	3.5
5.4	4.7	3.1	8.23	0.73	1.1	24.9	166.4	62.4	11.2	2.4	1.528	3.1
5.6	4.6	0.4	12.53	0.81	1.6	44.5	170.9	66.5	19.0	1.4	2.320	2.5
5.6	5.2	0.8	6.01	0.39	1.5	29.4	114.1	54.7	14.3	1.4	2.324	2.5
5.6	4.6	3.1	9.14	0.76	1.2	25.8	172.1	40.7	5.0	2.4	1.760	2.2
5.8	4.8	1.3	8.06	0.54	1.5	25.6	116.9	56.9	2.0	1.6	2.312	2.2
5.8	5.1	1.9	6.34	0.42	1.5	20.8	82.4	45.6	2.6	1.4	2.346	2.7

土壤分析成績(畑)

保全 対策 区	土 壤 区	地 点 番 号	層 位	深 さ cm	理 学 性														
					礫 (風乾物中) %	風乾細 土 中		細 土 無 機 物 中					土 性	現地における理学性 100cc 容中					
						水 分 %	腐 植 %	粗 砂 %	細 砂 %	砂 合 計 %	シ ル ト %	粘 土 %		容 積 重 ♀	固 相 容 積 cc	水 分 容 積 cc	空 気 容 積 cc	孔 隙 率 %	
大 別			4	33~40	—	123	86	151	443	59.4	406	0	L	—	—	—	—	—	
			5	40~55	—	126	9.2	9.1	539	63.0	37.0	0	L	—	—	—	—	—	
			6	55~70	—	128	—	10.3	586	68.9	30.5	0.6	SL	—	—	—	—	—	
			7	70~	—	9.9	—	1.9	49.9	51.8	35.9	12.3	L	—	—	—	—	—	
	大 別	22		1	0~1.9	—	86	26.5	4.7	38.3	4.30	46.1	10.9	SiL	—	—	—	—	—
				2	1.9~2.6	—	82	23.2	5.2	16.2	21.4	50.8	27.8	SiL	—	—	—	—	—
				3	2.6~5.0	—	6.6	7.1	1.3	15.6	16.9	51.8	31.3	SiC	—	—	—	—	—
	尾 幌	1		1	0~9	—	6.7	12.7	5.8	39.1	4.49	40.6	14.5	L	—	—	—	—	—
				2	9~25	—	12.7	10.5	7.2	35.3	4.25	47.0	10.4	SiL	—	—	—	—	—
				3	25~30	—	12.3	10.2	10.8	47.0	5.78	3.96	2.6	L	—	—	—	—	—
				4	30~46	—	13.4	10.2	9.6	5.29	6.23	3.60	1.7	L	—	—	—	—	—
				5	46~60	—	14.1	—	3.7	5.78	61.5	3.7.7	0.8	L	—	—	—	—	—
	上 尾 幌	上 尾 幌	3	1	0~1.3	—	3.4	2.7	9.7	3.46	4.43	3.39	21.8	CL	—	—	—	—	—
				2	1.3~6.0	—	4.2	—	6.5	2.96	3.61	3.79	2.60	LiC	—	—	—	—	—
	厚 岸	厚 岸	5	1	0~1.7	—	5.0	3.2	0.6	9.6	10.2	4.7.8	4.20	SiC	—	—	—	—	—
2				2.5~5.0	—	7.7	6.0	0.1	5.0	5.1	2.9.7	6.5.2	HC	—	—	—	—	—	
3				5.0~	—	4.8	—	0.3	1.4.4	1.4.7	4.8.5	3.6.8	SiC	—	—	—	—	—	
糸 魚 沢		9	1	0~2.0	—	3.2	6.8	2.6.4	2.2.9	4.9.3	3.1.1	1.9.6	CL	—	—	—	—	—	
尾 幌 原 野	尾 幌 原 野	4	1	0~2.0	—	8.2	3.3.6	0.6	2.3.8	2.4.4	4.3.7	3.1.9	LiC	—	—	—	—	—	
			2	2.0~3.0	—	3.6	11.8	5.1	3.9.3	4.4.4	4.5.9	9.7	L	—	—	—	—	—	
			3	3.0~5.5	—	8.6	4.5.1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	

化 学 性												
pH		置 換 酸 度 Y ₁				塩 基 置 換 容 量 me/ 100g	置 換 性 塩 基 mg/100g			石 灰 飽 和 度 %	磷 酸 吸 收 係 數	有 效 態 磷 酸 mg/100g
H ₂ O	KCl		T-C %	T-N %	C/N		CaO	MgO	K ₂ O			
6.0	5.3	06	494	033	1 5	217	576	506	26	1 0	2320	2.7
6.0	5.3	06	530	033	1 6	233	77.0	73.8	32	1 2	2328	2.7
6.0	5.4	06	—	—	—	29.1	77.2	509	4.1	1 0	2346	2.4
6.1	5.0	08	—	—	—	27.1	186.7	152.2	13.0	2 5	1,964	1.1
5.8	5.0	1.3	1531	1.13	1 4	366	613.5	187.5	7.7	6 0	1342	2.7
5.4	4.6	4.0	1338	0.94	1 4	55.5	488.5	186.7	49	3 1	396	1.4
5.5	4.1	0.4	412	0.20	2 1	21.4	165.0	151.0	198	2 8	480	2.1
5.7	4.8	1.3	735	0.49	1 5	202	141.8	70.9	13.1	2 5	1,858	3.7
5.7	4.8	1.9	605	0.37	1 6	325	154.1	39.7	5.7	1 7	2,302	3.5
5.8	5.0	1.3	590	0.35	1 7	29.0	108.6	32.1	5.7	1 3	2,392	1.1
6.0	5.0	0.9	590	0.35	1 7	30.0	103.6	32.6	5.4	1 2	2,436	2.2
5.9	5.0	1.3	—	—	—	26.1	84.9	46.9	8.6	1 2	2,400	2.2
5.8	4.5	3.1	158	0.13	1 2	19.0	325.0	116.9	14.0	6 1	758	6.4
5.2	4.0	25.6	—	—	—	22.3	216.6	139.0	8.6	3 5	746	2.9
5.9	4.7	1.3	1.84	0.17	1 1	24.2	454.7	129.9	11.4	6 7	1,014	3.5
5.1	4.0	29.4	3.49	0.31	1 1	35.1	309.7	192.1	10.4	3 1	1,324	2.4
5.2	3.9	35.6	—	—	—	23.5	206.1	160.9	10.5	3 2	924	2.9
6.0	5.0	1.8	39.4	0.26	1 5	21.1	324.4	112.5	47.0	5 5	738	3.8
5.0	4.1	20.0	19.43	1.59	1 2	45.7	274.9	153.7	11.2	2 1	356	1.4
5.2	4.4	5.0	68.4	0.46	1 5	13.3	69.8	62.7	1.3	1 9	694	4.5
4.9	4.1	17.2	260.5	1.70	1 5	44.9	472.4	167.6	7.7	3 7	422	1.9